第164号　2008年１月31日　　こ　だ　ま　　ISSN　0915－8782

目　　次

平成19年度　資料館・附属図書館特別展及びシンポジウム
【特別展】
「教える×学ぶ　－師範学校といしかわの教員養成史－」……2
【シンポジウム】
「金沢大学の３学域化と総合大学の教員養成の新機軸
－地域における教員養成の過去・現在・未来－」……2
基調講演要旨
教員養成の歴史的構造と今日的課題
東北大学大学院教育学研究科教授　水原　克敏……3
パネルディスカッション要旨……6
成長しつづける文庫　－宮本文庫開設に寄せて－
金沢大学経済学部教授　碇山　洋……8
図書館総合展に参加して……9
図書館のトピックス……10
本学教員著作等寄贈図書リスト（2007年７月～11月）……11
としょかん日誌（2007年７月～11月）……12

『雛　　祭』
儀式風俗図繪 ／ 巖　如春筆　昭和７（1937）年から
（石川県女子師範学校旧蔵）

平成19年度　資料館・附属図書館特別展及びシンポジウム

【特　別　展】

「教える×学ぶ
－師範学校といしかわの教員養成史－」

2007年10月15日～11月16日

昨年の四高展に引き続き，金沢大学の前身校である，石川師範学校・青年師範学校・高等師範学校をテーマとした展示会を開催しました。期間中900人を超えるたくさんの方々が来場されました。特に金大祭期間中の11月３日には，第１回ホームカミングデイが催されたこともあり，卒業生を含め120人を超える来場者で会場は賑わいました。

特別展会場の様子

【シンポジウム】

「金沢大学の３学域化と総合大学の教員養成の新機軸
－地域における教員養成の過去・現在・未来－」

平成19年10月29日（月）大学教育開放センターにおいて教員養成をテーマとするシンポジウムを開催しました。

基調講演では東北大学大学院教育学研究科水原克敏教授が近代日本における教員養成の歴史的構造を概観した上で，今日的課題についてまとめ，金沢大学の３学域化に期待を寄せられました。

パネルディスカッションでは，水原氏の基調講演を受け，本学教育学部大久保英哲教授のコーディネートにより，金沢大学での教員養成の歴史を踏まえ，パネリストのそれぞれの立場から意見及び問題提起がありました。フロアも交え，３学域化を機に大学全体として，今後，どのように教員養成に取り組んでいくかについて，活発な討論が交わされました。

宮下孝晴資料館長（司会）

橋本哲哉副学長（挨拶）

鹿島正裕図書館長（挨拶）

基調講演要旨

教員養成の歴史的構造と今日的課題

東北大学大学院教育学研究科教授　水　原　克　敏

Ⅰ　歴史的構造

日本の教員養成は，明治期の近代学校の創設以来，いくつかのステージを経て発展してきました。これを10期におさえることで今日的課題を明らかにします。

第１期は，近代学校の教員は，近世までの見識のある偉い師匠と違って，普通の人たちに，教育の専門的知識・技能を教えることで養成することになりました。以後の歴史をみると，途方もなく立派な「師範」像を立てて師範教育が展開されますが，実は，この時から，普通の人たちから教員を養成することになったという事実を踏まえておきたいです。

第２期は，明治23年の教育勅語によって，教員はその徳目を実践する「師範」，すなわち天皇の徳の代行者としての重い役割が課され，師範学校では，そのための独特の寄宿舎教育等が展開されました。教員は，学校教員であると同時に，天皇教の聖職者として，児童生徒の勉学はもとより生活指導，精神のあり方まで指導するという，日本的な教員像が誕生しました。

第３期の大正期になると，進学率も上がり児童生徒の自由な精神を尊重する教育が私立学校や附属小学校などで展開されますが，師範学校は，高等小学校から入学する中等学校的水準にあり，新しい教育に対応できる基礎的教養の不足が目立ってきました。しかし，専門学校程度に上がるのは昭和18年で，基礎学力批判，型にはまった教育方法，そして伝統的な教育者精神などへの批判が「師範型」というタームで批評されるようになりました。

第４期は，第２次大戦下の軍国主義の時代，教員は，その総力戦の先達としての役割が期待され，科学教育と思想善導の観点から，師範学校は専門学校程度に昇格されました。高等小学校卒業者では低い教養のために，高い水準の科学教育に対応ができず，かつ，共産主義思想に共鳴しがちな出身階層を排除できないので，昇格が選択されたのでした。

第５期は，第２次大戦後の「大学における教員養成」の改革です。昭和18年に続いて昭和24年という短期間の内に，中等学校から専門学校そして一挙に大学へと昇格したので，師範学校の３段飛びと揶揄されました。民主主義社会を導く上で，教員は大学で真理を探究した経験を有すること，かつ豊かな教養と人格が求められたので，「学芸大学・学部」が設置されることになりました。

第６期は，昭和33年中教審答申による目的大学化の方針と，地域割り計画養成の開始です。学芸大学は，教員養成を目的としませんでしたので，教育大学・教育学部と名称変更し，その目的のための教育を積極的に展開することが求められ，かつ当該府県への計画養成と教員供給が責任とされました。一般大学はそれを補完する位置づけになりましたので，いわば「隙間の開放制」に変化したことになります。

第７期は，昭和46年中教審答申における新構想の教員養成大学院の設置で，初任者研修・試

補制度，資格認定試験，教員人材の確保策，免許状の種別化などが打ち出され，大学院における教員養成と教員研修が開始されました。大学院教育による幹部候補生の養成と主任制度の導入が目的で，以後，多くの教育大学・学部に修士課程の設置が進むことになりました。さらに新構想大学院では，新しい学校教育学の創造が謳われましたが，なかなか容易なことではなく，教員の仕事を本当に支えることのできる新しい学校教育学の創造は，今日までその課題を引きずっています。

第８期は，臨時教育審議会による実践的資質向上の要請です。高度経済成長の果てに，学校は難しい局面をむかえ，いじめ，不登校，中退，暴力，そして学力低下などの事態に対応できる実践的資質を有する教員が求められるようになりました。しかも，市場原理による競争，規制緩和，弾力化，流動化など，社会全体の構造改革が開始され，その中で生き残れる学校経営の力量と困難な事態に対処できる実践的資質が求められたのでした。

第９期は，そのような実践的資質が求められても，一人の教員がすべての要請に応えることは困難な時代にあるので，平成９年の教養審答申では，「得意分野を持つ選択履修方式への構造転換」が打ち出され，平成10年の免許法改正によって，「教科または教職に関する科目」という大枠にされて，大学の持ち味によって単位を按配することが可能になりました。個人的な得意分野というよりは，大学ごとの特色に応じた教員養成カリキュラムが奨励され，その成果は，模擬授業などを含む採用試験で測られることになりました。

第10期は，平成16年度の国立大学法人化と平成20年度からの教職大学院創設の影響が大きいです。法人化は大学間を民営化志向で競争させ，生き残りか廃止・統合か，その合理化が始まったということです。教職大学院は，教育委員会と実務家が参加し，従来の大学教員だけではできなかったプロフェッショナルな教員を養成しようという動きですが，同時に，それは20人程度の少人数でも開設できるため，旧来の修士課程，ひいては教育大学・学部の解体をもたらす危険性をはらんでいます。平成21年４月より教員免許更新制が作動しますので，教育大学・学部は教員研修の拠点として体制を立て直すこともいいと思います。

Ⅱ　今日的課題

最後に，これまでの歴史的経緯をふまえて，今日的課題をまとめます。

（1）各大学が独自のコンセプトでカリキュラム開発

各大学が特色を生かした教員養成のコンセプトを立てて，独自のカリキュラムを開発することが求められます。特に，まもなく教職実践演習を課すこととなり，大学は，教員としての品質保証の観点から，学生に評価をつけなければなりませんので，その評価から教員養成のカリキュラムを見直すなど，いわゆる Plan⇒Do⇒See のサイクルを確立することが必要です。

（2）大学院レベルでの教員養成の時代

教育大学・学部は，師範学校から専門学校昇格，大学昇格と水準を上げてきましたが，先進国の標準はもはや大学院レベルにありますので，今後は，大学院による少数精鋭の教員養成教育に力点を移すべきであると思われます。一般の学部を卒業した人が，教員養成の大学院に入って，高いレベルの教員養成教育を受けるという時代に入ったのです。

（３）授業・カリキュラム・評価能力のある教員

教員の資質は，何といっても授業ができること，そして年間を通してカリキュラムが構成できることが大切です。ややもすると，授業計画だけにおわり，学校全体のカリキュラムまで視野に入れて教育実践をしている教員は少ない状況にあります。今日では，授業とカリキュラムそして評価・改善という，いわゆる Plan⇒Do⇒Check and Action を遂行できる資質形成に向けて教育することが必要です。そうしてこそ学力対策のきちんととれる教員を養成することができます。

（４）「自分づくり」などを支援できる人間力の養成

教科指導のみならず教科外活動への指導，とりわけ「自分づくり」などを支援できる人間力のある教員を養成することが求められています。一言で言えば生徒指導ですが，昨今の青少年は，ややもすると生きる意味を喪失し，ある種の目的に向けて勤勉に努力することがなくなり，むしろ真面目さを蔑む傾向にあります。教員養成としては，少年少女たちとコミュニケーションの取れる力，人生を語り合う力をつけることが課題です。この種の対応は，特に正解があるわけではないですが，サークル活動，フレンドシップ事業やボランティア事業などが効果的であると思われます。

（５）地域との関わりで学校づくりのできる教員

学校は地域の教育要求を受けて行うことが使命のひとつですし，また，地域の支えなくしては学校経営を成功することができません。そのために学校は地域に開いて，地域を取り込んで教育づくりをすることが求められますが，教員養成の教育においては，この種の努力と成果について，教育実践校の指導的教員を招聘して教育に当たってもらうことが効果的です。

（６）本格的な教養教育

以上の５点が教員養成の今日的課題であると考えますが，さらに歴史に学ぶなら，その専門教育の前提として，ものごとを広く深く捉える教養教育が必要不可欠です。人間・社会・自然そして未来に対する鋭角的な課題認識と洞察力とを有し，多様な価値観に対応できる資質形成を図らなければなりません。金沢大学の３学域化の改革では，ぜひ，本格的な教養教育を構築されるよう期待します。

講演中の水原氏

水原　克敏

MIZUHARA Katsutoshi

1949年生まれ，東北大学大学院教育学研究科教授，東北大学総長特任補佐，日本教師教育学会理事，教育学博士。

専門は教育学で，教員養成カリキュラムの研究をテーマとする。『近代日本教員養成史研究』風間書房　1990，『学校を考えるっておもしろい！！』東北大学出版会　2006　ほか著書多数。

パネルディスカッション要旨

パネリスト

水原　克敏（東北大学大学院教育学研究科教授）
鈴森　庸雄（石川県高等学校長協会会長，石川県立金沢泉丘高等学校長）
谷本　宗生（東京大学大学史史料室専任室員）
深川　明子（金沢大学名誉教授）
鹿野　勝彦（金沢大学副学長（教育担当））

コーディネーター

大久保英哲（金沢大学教育学部教授）

シンポジウムのパネリスト

今後の大学における教員養成は，教育政策や行政改革をふまえて，国立大学が対応してきた歴史的経緯を点検することが必要である。また地域社会の要請に応える点からは，従来の教育学部での養成から，全学レベルの大学改革との関係性のもとでの教員養成として考える必要がある。

高校の現場では，若い教員がコミュケーション力の不足に悩み，次第に採用時の精彩を希薄化させていく現状がある。対生徒にとどまらず，成熟した社会人である保護者や大人ともコミュニケーションできる能力を大学で身につけることが必要であり，この点，とくに大学の教育に期待する。

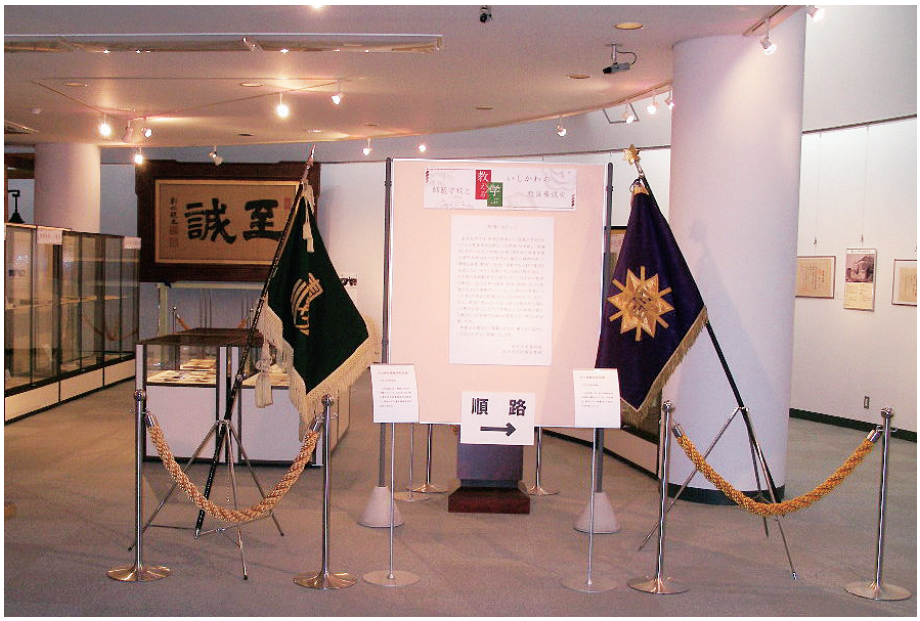
金沢大学３学域化のねらいは，国立大学の規模縮小が迫られる一方で，地域の基幹大学という立場を堅持しつつ，さらに新しい分野への取り組みを可能にすることである。そのような大学の理念と構造をこれまで高・大の接続という観点から点検改善してきたが，「総合大学」としての内部相互連携の点検はまだ十分ではない。高度に専門性の高い職業人としての教員をどのように養成していくのか，今後，全学的に考えていく必要がある。

新しい教員免許法では，教員養成において「教科」「教職」のどちらを重視してもよく，大学の特色を打ち出すことが可能である。金沢大学では，従来型の学部や大学院から一歩踏み出して，個性的で特色を持った教員養成集団や大学院を構想するなどの選択肢もあるのではないか。たとえば大学の枠を超えて北陸３県で一つの大学院を作る，なども考えてよいのではないか。

金沢大学では，教職系教員数が限られるなかで，医薬保健学域を除く12学類全てが課程認定を希望している。そうであるからには，新しい教員組織のもと，専任教員が準専任的な立場で教科専門を受け持つなど，教員養成についてより強い自覚を持って取り組むべきであると考えている。また大学の限られた授業の中だけではよい教員養成はできない。授業をきっかけとして，授業外でも積極的に取り組むなど，「自学自習」のできる学生を育てなければならない。さらに教員養成のために，特務教授・特任教授の活用も考えられなければならない。

低成長時代，少子化・予算削減・資金不足のなかで教育も研究も行わなければならない状況にある。金沢大学は時代をいち早くとらえ，大学の教育研究体制を抜本的に改革し，全学的な教員養成のあたらしいあり方を目指している。これが成功するには，全学的ネットワークはもとより，地域の協力，全国の他大学との情報交換なども必要となる。すなわち，長期的な展望と全国的な視野の下，地域との連携を図りながら，特色ある教員養成を進めていかなければならない。

シンポジウム配布資料は，http : //www.lib.kanazawa-u.ac.jp/shihan/symposium.html で入手できます。



特　別　展　会　場（資料館）

成長しつづける文庫　－宮本文庫開設に寄せて－

金沢大学経済学部教授　碇　山　　洋

このたび金沢大学附属図書館に「宮本文庫」が開設され，９月30日，開設式と記念シンポジウム『共同社会条件の再生と維持可能な社会への課題』が金沢市内で開催された。

シンポジウムの第１部は宮本文庫開設式で，鹿島正裕図書館長から宮本憲一先生に感謝状をお渡ししたほか，資金面で文庫準備を支えていただいた澁谷学術文化スポーツ振興財団を代表して澁谷亮治澁谷工業会長からごあいさつをいただいた。

第２部では宮本先生が「維持可能な社会の政治経済学」と題して記念講演をされ，第３部では寺西俊一教授（一橋大学），諸富徹准教授（京都大学），森裕之准教授（立命館大学）ら，宮本先生から大きな学問的影響を受けてきた５名の研究者で宮本先生を囲んで，「維持可能な社会に向けた私たちの課題」をテーマに討論を行った。宮本理論の意義とその継承・発展についてさまざまな意見が出され，充実した討論となった。

宮本憲一先生は，大阪市立大学を定年退官された機会に，蔵書と収集資料の多くを，母校(旧制四高）でありかつて教鞭をとられたこともある金沢大学に寄贈された。立命館大学退職時にも追加の寄贈があり，金大では宮本文庫開設準備委員会を組織し，宮本文庫として公開すべく準備をすすめてきた。

寄贈された図書は約八千点。そのうちとくに価値の高い四千点近くが，今回，公開された。財政学，環境経済学，地域経済学，地方自治論をはじめ，先生の御活躍の領域の広さを反映して，広範囲にわたる蔵書となっている。

これら図書だけでも非常に貴重な文庫であるが，実は，図書以上に，宮本先生が収集された資料類が，学術的にきわめて価値の高いものである。なかでも，「公害の原点」ともいうべき水俣病や四日市ぜんそくなど，公害問題の現場に何度も足を運ばれ，「行動する経済学者」として苦労し入手された資料類は，宮本先生のお仕事の神髄をしめしている。

住民団体の部内資料や，自治体の条例策定過程でつくられた資料，裁判の準備のために作成された資料など，もう他では絶対に入手不可能なものも多く，文字どおり唯一無二の資料群である。

ところが，その膨大さと内容の複雑さから，この資料類の整理・分類が難航をきわめた。同様の資料類の整理の研究をしている財団などとも情報交換したが，こうしたものの分類方法は世界的に未確立だという。それで自分たちなりに試行錯誤を積み重ねながら分類を進めてきたのだが，最近になって，現在とりくんでいる大分類が完了したら，資料類をそのまま写真製版（場合によってはマイクロフィルム化）して出版することを検討したいと名乗りをあげてくれる出版社があった。それで，資料類は近い将来，『宮本憲一収集資料』（仮題）として出版することにし，図書だけを宮本文庫として先行公開することとなったのである。

このように，膨大な量の収集資料の公開に先立って図書のみを公開したのが今回の宮本文庫開設の特徴であるが，実はもうひとつ特徴がある。ご本人が研究活動を終えられてから図書や資料を寄贈され，それが個人の名を冠した文庫となるのが一般的であるが，宮本先生はいまも最前線で活躍されている現役の研究者である。

先生のお手許に置く必要のなくなったものから順次，寄贈いただいており，今後も研究の節目ごとに図書・資料を御寄贈いただくことになっている。宮本文庫はいわば成長しつづける文庫なのである。

宮本文庫の図書は，大学内外のすべての人に開放されている。近い将来刊行されるであろう『宮本憲一収集資料』とあわせ，宮本先生の研究の足跡にふれるとともに，宮本理論を受け継ぎ発展させるために，また公害問題，環境問題などの解決に役立てるために，ぜひ積極的にご利用いただきたい。

宮本文庫開設記念シンポジウムで
学長からの感謝状を贈られる宮本氏
贈呈者は鹿島正裕図書館長

中央図書館地階書庫に
配架済みの宮本文庫

〔図書館注〕　宮本文庫は地階書庫に配架されています。学内蔵書検索（OPAC）では，所在が「図宮本文庫」と表示されます。

■図書館総合展に参加して

2007年11月７日から９日まで横浜で行われた図書館総合展に参加しました。３日目のDRF（デジタル・リポジトリ・フェデレーション）ワークショップ「日本の機関リポジトリ2007」では会場を埋め尽くす参加者の中，第１部基調講演「機関リポジトリの将来像を考える」，第２部DRF参加大学による事例報告，第３パネルディスカッションという構成で機関リポジトリの現状，そしてこれからの課題が報告，議論されました。

第２部の事例報告では，寸劇というユニークなスタイルで機関リポジトリに関する事例が紹介されました。金沢大学からの参加者も役者又は裏方として参加したのですが「機関リポジトリ」という一般にはなじみにくい内容にも拘わらず，寸劇というスタイルをとることによって，明るい雰囲気の中，聴衆にも理解しやすいものになっていました。機関リポジトリに限らず「図書館の活動を学内に広くアピールする」ということの重要性はこれから益々高まっていくのではないかと思います。寸劇を見て「図書館員のお遊び」と思われた人も中にはいたかもしれませんが，プレゼンテーションの一例としての今回の寸劇は参考にすべき点がたくさんあると感じました。

今回の図書館総合展に参加して，自分が（勉強不足で）知らない図書館をめぐる状況やトレンドを垣間見ることができました。少しでも日々の業務に活かせればと思います。

情報企画課コンテンツ第一係
伊藤　美和

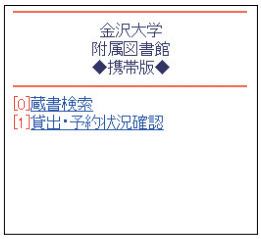
図書館のトピックス

■貸出状況が携帯電話から確認できます

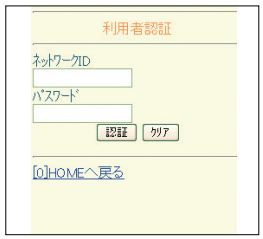
あれ？借りてた本の返却期限っていつまでだっけ？
そんなとき，下記のサイトにアクセスしてください。

1．http : //www 2.lib.kanazawa-u.ac.jp/mobile/
QR コード対応の携帯をおもちの方は，下記のコードからアクセスできます。

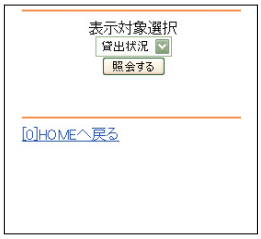
2．最初の画面
［1］貸出・予約状況確認
を選びます



3．利用者認証画面
ネットワーク ID とパスワードを入力します



4．表示対象選択画面
プルダウンメニューから，
「貸出状況」
または
「予約状況」
を選びます



※ネットワーク ID についての詳細は，図書館 HP をご覧下さい。
※貸出期限の延長については，パソコンから操作するか，またはカウンター・自動貸出装置をご利用ください。

■ホームページから自分自身の操作で貸出更新ができるようになりました

図書館 OPAC の「貸出予約状況確認」画面から，自分自身の操作で貸出更新ができるようになりました（ネットワーク ID が必要です）。
※各館の貸出規則で更新できない資料は除きます。
※一般利用の方はサービスカウンターで手続きをお願いします。

■留学生用パソコンを更新

中央図書館３階の留学生用 PC コーナーのパソコンを２台更新しました。
OS は WindowsVista 日本語版と英語版で，アプリケーションソフトはいずれも Microsoft Office2007を入れています。このほかに韓国語，中国語対応のものが各１台ずつありますのでご活用ください。

■衛星放送コーナーを改修

中央図書館では従来の受信局に加え，平成19年10月から FM ラジオ３Ch，高品位デジタル・ラジオ放送（MusicBird）３Ch，放送大学の講義を常時受信しています。また，すべての座席で全放送を視聴できるようになりました。

■石川知学（ちがく）展：金沢編を開催

中央図書館閲覧ホールで７月19日～８月17日の期間，昨年に引き続き図書館が所蔵する石川県の文化や歴史を紹介した資料のなかから，金沢編としておよそ500点を選択し展示（一部を除き貸出）しました。

展示資料リスト（EXCEL）
http : //www.lib.kanazawa-u.ac.jp/event/2007/ishikawa_chigaku 2007_list.xls

ありがとうございました

本学教員著作等寄贈図書リスト　2007/7～11

竹田亮祐（名誉教授）著
　笠舞雑記：Essays and Repetitious Talk on the Downhill of Life
　［竹田亮祐］2007．5
（図書庫914．6：T136）

森雅秀（文学部教授）著
　生と死からはじめるマンダラ入門
　法藏館　2007．7
（図開架186．8：M854）

長谷川卓（理学部准教授）分担執筆
　Paleoclimates in Asia during the cretaceous ： their variations, causes, and biotic and environmental responses
　International Geoscience Programme Project 507 2007
（自然図２Ｆ一般図書451．8：P156）

宮城陽（名誉教授）著
　基礎・専門用語を丁寧に解説した有機化学
　丸善　2007．5
（図開架437：M685）
（自然図２Ｆ一般図書437：M685）

正木恵美（非常勤講師）訳
　新選組：将軍警護の最後の武士団
　ババルプレス　2007．6
（図書庫210．58：R767）

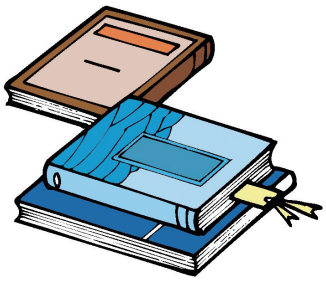
碇山洋（経済学部教授）共編著
佐無田光（経済学部准教授）共編著
橋本哲哉（理事・副学長・社会貢献室長）共著
神谷浩夫（文学部教授）共著
飯島泰裕（経済学部准教授）共著
横山壽一（経済学部教授）共著
奥田睦子（経済学部准教授）共著
　北陸地域経済学：歴史と社会から理解する地域経済
　日本経済評論社　2007．6
（図書庫332．14：I26）

李慶（外国語教育研究センター教授）訳
　気的思想：中国自然観和人的観念的発展
　上海人民出版社　1990．7
（図書庫122：O58）

出村愼一（教育学部教授）著
　健康・スポーツ科学のための研究方法：研究計画の立て方とデータ処理方法
　杏林書院　2007．6
（図書庫780．7：D389）

出村愼一（教育学部教授）監修
　健康・スポーツ科学のための SPSS による統計解析入門
　杏林書院　2007．8
（図開架780．1：S253）

林宜仁（理学部准教授）分担執筆
　Vanadium ： the versatile metal
　American Chemical Society c 2007
（自然図２Ｆ一般図書436．51：V217）



としょかん日誌（2007年７月～11月）

７月１日～13日　平成19年度大学図書館職員長期研修に参加（筑波大学）林裕紀子（医学部分館係）

７月２日　平成19年度第１回図書館連携作業部会に出席（国立情報学研究所）木下聡（情報企画課長）

７月３日　平成18年度 CSI 委託事業報告交流会に出席（ベルサール九段）木下聡（情報企画課長），内島秀樹（情報企画課副課長），橋洋平（情報企画係長）

７月５日　国際ラウンド・テーブル会議に参加（金沢工業大）内島秀樹（情報企画課副課長）

７月11日　石川県公共図書館情報ネットワーク研究委員会に出席（石川県立図書館）谷口貞治（相互利用係長）

７月11日～13日　平成19年度学術ポータル担当者研修講師として参加（名古屋大学）内島秀樹（情報企画課副課長），橋洋平（情報企画係長）

７月17日～18日　平成19年度国立大学法人等部課長級研修に参加（学術総合センター）川添真澄（情報サービス課長）

７月31日　業績 DB 及び機関リポジトリに関する打合せに出席（早稲田大）内島秀樹（情報企画課副課長）

８月21日　第１回 DRF 国際シンポジウム実行委員会に出席（国立情報学研究所）内島秀樹（情報企画課副課長）

８月22日～24日　学術ポータル担当者研修講師として参加（国立情報学研究所）内島秀樹（情報企画課副課長）

８月25日～26日　第24回医学情報サービス研究大会に参加（活水女子大）守本瞬（医学部分館係長）

９月５日　平成19年度目録システム地域講習会講師として参加（富山大）押見智美（コンテンツ第二係長）

９月５日　平成19年度国立大学図書館協会シンポジウムに参加（大阪大）香川文恵（自然科学系図書館係）

９月６日　平成19年度目録システム地域講習会講師として参加（富山大）守本瞬（医学部分館係長）

９月７日　平成19年度学術コンテンツ運営・連携本部図書館作業部会第２回機関リポジトリワーキンググループに出席（国立情報学研究所）木下聡（情報企画課長）

９月10日～11日　RIMS 研究集会「紀要の電子化と周辺の話題」に参加（京都大）内島秀樹（情報企画課副課長）

９月20日　平成19年度学術コンテンツ運営・連携本部図書館作業部会第３回機関リポジトリワーキンググループに出席（国立情報学研究所）木下聡（情報企画課長）

９月20日　平成19年度電子ジャーナル地区説明会に出席（新潟大）押見智美（コンテンツ第二係長）

９月25日　図書館と NII の集い（NIILibraryForum2007）に参加（キャンパスプラザ京都）松原美重子（自然科学系図書館係長）

10月10日　平成19年度学術情報リテラシー教育担当者研修に参加（大阪大）橋洋平（情報企画係長）

10月15日　平成19年度第２回学術コンテンツ・連携本部図書館連携作業部会に出席（国立情報学研究所）木下聡（情報企画課長）

10月16日～19日　平成19年度大学図書館職員短期研修に参加（京都大）野見山敦史（コンテンツ第一係），池上佳芳里（相互利用係）

10月17日～19日　平成19年度目録システム講習会に参加（国立情報学研究所）野田晶子（コンテンツ第二係）

10月24日　平成19年度京都大学機構公開事業に参加（京都大）内島秀樹（情報企画課副課長）

11月７日　DRF と SCPJ の今後についての打合せに出席（国立情報学研究所）木下聡（情報企画課長），内島秀樹（情報企画課副課長）

11月８日～９日　平成19年度北信越地区国立大学附属図書館研修会に参加（福井大）上島のり子（コンテンツ第一係），中村律子（医学部分館係）

11月９日　第９回図書館総合展に参加（パシフィコ横浜）由良信道（情報部長），内島秀樹（情報企画課副課長），橋洋平（情報企画係長），伊藤美和（コンテンツ第一係），川井奏美（コンテンツ第一係）

11月12日～13日　平成19年度北陸地区国立大学法人等中堅職員研修に参加（富山大）香川文恵（自然科学系図書館係）

11月13日　石川県大学図書館協議会特別研修会に参加（金沢学院大）林裕紀子（医学部分館係），野田晶子（コンテンツ第一係），中川美穂子（自然科学系図書館係）

11月16日　第１回国際シンポジウム地域組織委員会に出席（大阪大）内島秀樹（情報企画課副課長）

11月22日　第１回 DRF 地域ワークショップに講師として参加（岡山大）内島秀樹（情報企画課副課長）

11月30日　第５回東海地区 CSI 事業報告会に出席（名古屋大）村田勝俊（中央図書館係長），野田晶子（コンテンツ第二係）

金沢大学附属図書館報「こだま」第164号

発行：金沢大学附属図書館　　編集：広 報 委 員 会　　2008年１月31日発行

〒920－1192　金沢市角間町　電話(076)264－5200　　印刷：株式会社 橋本確文堂

ホームページＵＲＬ　http : //www.lib.kanazawa-u.ac.jp/

電子メールアドレス　etsuran@ad.kanazawa-u.ac.jp

表題地模様©Toku Yusui（加賀友禅染絵『さやぐ，おどる』。由水十久（初代。1913－1988）は金沢出身の加賀友禅作家）